

江東区とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設所在地	江東区新砂3-3-11
施設名	新砂保育園

1 活動のテーマ

〈テーマ〉

光と影

〈テーマの設定理由〉

西日が差し込む時間帯、アクリル玩具を使って遊んでいた。保育者が「光に照らしてみたらきっと綺麗だろうね」と言うと、「やってみたい！」とベランダに出て差し込む西日にかざし始めた。映し出された影に色がつくことに気付き、光の当て方や向きを工夫して遊ぶ姿があった。その発見がきっかけとなり、子どもたちの光と影への興味や関心は次第に高まり、様々な活動へと発展していった。

2 活動スケジュール

【5月】
・アクリル玩具を太陽の光に当てて、影に色がつくことや、物の置き方によって映し出される影の形が変化することに気付く。
【6月～7月】
・傘袋に入れた色水を園庭に吊るし、太陽の光を当てて色水が輝く様子を見て楽しむ。
【8月】
・夕涼み会で手作りのプラネタリウム鑑賞を行い、光が頭上に広がって見える仕組みに関心をもつ。また、このことがきっかけとなり、3月のお別れ遠足で本物のプラネタリウムに行くこととなった。
【9月】
・アクリル玩具を窓辺に置き、差し込む太陽の光の角度によって、見える影の形が変化することに気付く。
【10月】
・ライトテーブルに自然物を置き、葉っぱの葉脈を観察する。
【11月～2月】
・影絵劇鑑賞で影ができる仕組みに興味をもったことをきっかけに、暗い部屋で光を当てて遊ぶ。
【3月】
・お別れ遠足でプラネタリウムに行き、スケールの大きさに驚いたり、感動する姿があった。
・書画カメラを使い、壁に光を使った遊びを照らし出して遊んだ。

3 活動のために準備した素材、道具及び環境の構成

【準備した道具・素材】
・アクリル玩具・ライト・ライトテーブル・スクリーン・書画カメラなど
【環境構成】
・光と影の世界を存分に楽しめるよう、暗い部屋を用意して遊べるようにした。

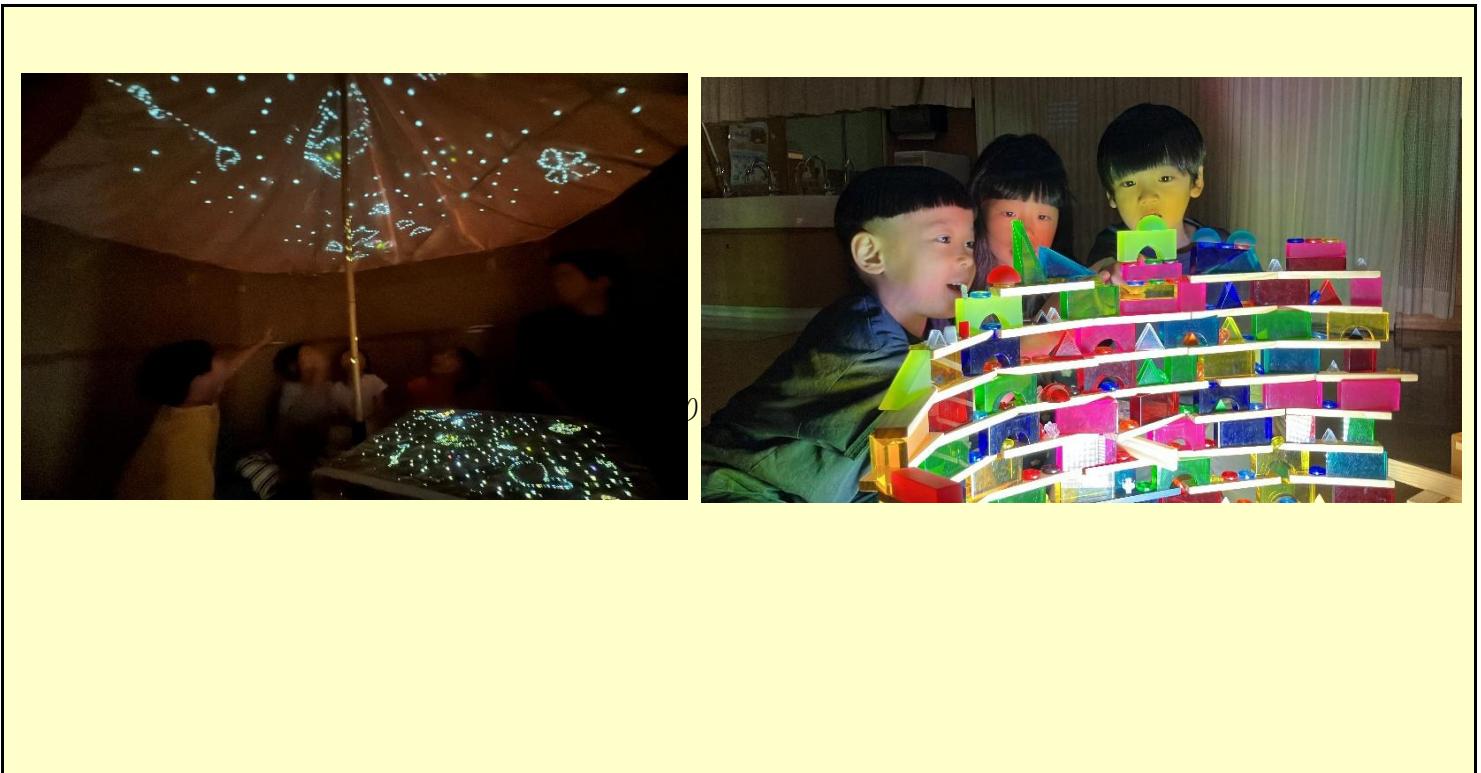
4 探究活動の実践

〈活動の内容〉

アクリル玩具を太陽の光に当てたことがきっかけで、影にも色がつくことや、光の差し込む方向によって影の形が変化することに興味や関心をもち、色々な素材を光に照らしてみる姿が見られた。影絵劇鑑賞では、影を作る仕組みにも関心を示し、実際に自分で影を作る道具を作って試してみる活動へと発展していった。夏に行った手作りのプラネタリウム鑑賞では、自分で作った星座がドーム内に映し出されると「こんな景色があるなんて…」と感動している様子であった。このことがきっかけとなり、3月に本物のプラネタリウムに行くことを決定した。冬になると、日が暮れるのが早いことから、暗い部屋を用意して光と影の世界を楽しむ時間を設けると、夢中になって遊ぶ姿が見られた。

〈活動中のこどもの姿、声、こども同士や保育者との関わり〉

- ・アクリル玩具が光に当たると、影に色がつくことに気付いた子どもたちは、「これはどう？」と、他にも透けて見える物がないか探しながら遊ぶ姿があった。
- ・夏に行った手作りのプラネタリウム鑑賞では、自分の想像を超えた光景を目の当たりにし、ため息をつくかのように「きれい…」と言ったり、「今日の空にこんな景色があったらいいのに…」と、深く感動している様子であった。この活動がきっかけで、夜空や星座への関心も高まっていった。
- ・アクリル玩具でクリスマスツリーを作る際、何度も試す中で壊れにくくするためにツリーの形を湾曲状にすることを考え付いた。また、土台を頑丈にすることで、より壊れにくい形をつくり出していた。



5 振り返り

〈振り返りによって得た先生の気づき〉

アクリル玩具を光に当てた時、影に色がついて見える現象は、子どもの興味や関心を強く引き出すきっかけとなった。また、太陽がどの方向からどのように差し込むのかを考えて物の置き方を工夫する姿からは、考えたり、試したりする力が育っていった。プラネタリウム鑑賞や、暗い部屋で光を照らして遊ぶ時間は、子どもたちにとっては非日常の体験であり、子どもの感性に強く働きかけた活動となった。光と影の遊びを通して、「きれい」「不思議」「面白い」など、心が動く瞬間がたくさんあり、感性に働きかける環境作りがどれほど大切なことなのか再確認する出来事であった。